



季節感

熟柿になっても採る人なし。
野鳥の餌になるだけ… 穏やかな小春の一日、やがて正月が来る…

『洪柿』

平成20年12月9日
福岡市西区松風橋近く
大塚 俊樹



熊洞居人独言

33

クマは今、日本生物教育学会の全国大会準備に悩殺されている。この学会は教育系大学や高等学校生物教師、小・中学校理科教師、各県教育センターや自然系博物館研究員、自然系団体の指導者や会員などで構成されている。現在、クマはこの学会の九州支部長をしている。本学会の第86回全国大会を福岡で開催し、クマは大会実行委員長を務めることになっている。

2009年は、C. ダーウィンが誕生して200年、進化論が社会思想として全世界を席卷するきっかけを作った「種の起源」発刊から150年目に当たる。国際生物学連合(IUBS)はこの2009年の間、各国にて様々なテーマでシンポジウムを開催し、生物学の普及と啓蒙を行なうことが企画されています。日本の生物科学学会連合では2009年を「日本生物学年」とし、「IUBS Darwin 200 Symposia 応援シンポジウム」を企画し、日本における生物学の普及と啓蒙を図ることとなっている。

この記念すべき年が始まるに当たり本大会では、生物系学会大会として「身近な生きものに見る進化」をテーマに、記念講演やシンポジウムを企画している。次の学習指導要領(案)では、生物教育の中で「生物進化」が、重要なテーマとして位置づけられている。

学会は、次の日程・会場で開催される。

2009年1月10日(土)	公開講演会及びシンポジウム 研究発表・ポスター発表
11日(日)	研究発表・ワークショップ

会場：中村学園大学西2号4~6階

記念講演は、九州大学理学部教授 矢原 徹一 氏の講演を予定している。矢原氏は日本を代表する進化生物学者の一人で、花と昆虫の共進化の研究からスタートし、環境省レッドデータブックの編集責任者を務めておられる。シンポジウムは「初等中等教育における進化の取り扱い—進化の視点を持った教科指導—」をテーマに行う。自然観察指導員の皆さんの積極的な参加を期待します。詳細問い合わせはクマ(冷川)まで。



※※※事務局からのお知らせ※※※

この、NAIS福岡会報『自然感くすのき』は、NAIS福岡ホームページにも毎号掲載しています。
(<http://www.kurabird.com/> (自然案内舎(有)クラブードHP)のトップページ下方にある、「福岡県自然観察指導員連絡協議会」からお入り下さい。)

現在、この会報は、全会員に郵送しておりますが、もし、「ホームページの方で見るので、郵送分は必要が無い」という方がいらっしゃいましたら、事務局までお知らせ下さい(連絡先は、会報奥付をご覧ください)。順次対応させていただきます。

なお、この場合、郵送費用はホームページ維持費に充てますので、ご了承下さい。

※お願い 会報をホームページで見る環境をお持ちの会員は手をあげて下さい。経費節減のためです。
宜しくお願いします。

◆◆青葉パークネイチャークラブ活動報告◆◆◆

青葉パークネイチャークラブも2年目を迎え、小学校1年生から4年生男女14名の会員とスタッフで青葉公園での自然観察、青葉公園での環境教育・学習を楽しんでいます。地元参加のスタッフも県外で自然観察指導員の講習会に参加し自然観察指導員の仲間となりました。

活動は年6回で季節に合ったテーマで、午前中青葉公園の昆虫・植物・野鳥の自然観察を行い、午後は青葉公民館でワークショップを中心に自然材料を用いたクラフト作りや壁新聞作りを行っています。今年は、「エコプの環境助成金」を得ることができ長崎県平戸市「たびら昆虫自然園」に昼夜の昆虫観察を行いました。西澤園長の熱心な案内に 参加者一同聞き入り感動の一日が過ごせました。特に夜の観察会では多くのカブトムシ・クワガタが観察でき親子共々自然環境のすばらしさに感動していました。

「たびら昆虫自然園」が16年前に人工的に造られた森であること知り、人間の手で多くの生物が住む森が復元できることを体験しました。活動を行っている青葉公園でも植樹を行うことで多くの生物が住める公園づくりに関心を持つようになりました。

昨年の12月の野鳥観察でコゲラを観察することが出来ました、都会の公園でもコゲラが観察出来たので今年の野鳥観察が楽しみです。

青葉公園の自然観察活動を青葉地区に広げて欲しいとの公民館の要望がありますのでスタッフの募集を行っています。興味のある方は、uryu50@ybb.ne.jp まで連絡下さい。



日本野鳥の会福岡支部 主催

※参加費：100 円（中学生以下無料）

12/21（日）1/18（日）
 天拝山探鳥会（筑紫野市）
 時 間：9:00～12:00
 集 合：天拝山歴史自然公園
 問合せ：092-920-7112（山本勝）

12/27（土）1/24（土）
 久末ダム探鳥会（福岡町）
 時 間：8:00～11:00
 集 合：久末ダム多目的広場横駐
 車場（管理事務所下）
 問合せ：0940-33-7846（高原和幸）

1/4（日）
 今津探鳥会（福岡市西区）
 時 間：9:00～12:00
 集 合：玄洋高校西側道路
 問合せ：092-891-9005（神園道男）
 月例探鳥会

1/10（土）
 大濠公園探鳥会（福岡市中央区）
 時 間：9:00～12:00
 集 合：ボート乗り場前
 092-573-1827（森健児）

1/11（日）
 和白海岸探鳥会（福岡市東区）
 時 間：9:00～12:00
 集 合：JR 和白駅前の公園
 問合せ：092-606-0012（山本廣子）

12/23（火・天皇誕生日）
 志賀島（福岡市東区）
 時 間：10:00～お昼頃
 集 合：志賀島渡船場前
 問合せ：0940-33-7846（高原和幸）

日本野鳥の会筑後支部 主催

※参加費：100 円（中学生以下無料）

12/28（日）
 濃施山公園（みやま町）
 時 間：9:00～
 集 合：公園内すいせん橋
 0944-58-1672（野田）

**福岡植物友の会 主催**

12/7（日）
 三日月山（福岡市東区）
 イズセンリョウ、アリドオン他
 詳細は：092-947-6536（大吉博子）

三国丘陵の自然を楽しむ会 主催<http://mikunikyuryo.blog107.fc2.com/>

1/10（土）
 時 間：9:30～12時30頃
 問合せ：092-920-3072（松永）

要：保険料
 集合場所は三国のブログでご覧く
 ださい。
 三国丘陵 ですぐにヒット
 します。

エフコープさんの環境助成金で自然観
 察冊子ができあがりました。冊子は観察
 会のたびに配布します。欲しい方は観察
 会にご参加ください。

和白干潟を守る会 主催

12/20（土）
 守る会定例会議
 時 間：10:30～12:30
 集 合：和白干潟を守る会事務所
 問合せ：092-606-0012（山本廣子）

**久留米の自然を守る会 主催**

12/20（土）
 クリーン作戦 と自然観察会
 時 間：15:00～17:00
 集 合：海の広場 駐車場なし
 長靴・軍手があると便利
 問合せ：092-661-1594（田辺スミ子）

12/14（日） 第365回例会
 冬の自然観察会と豚汁会
 時 間：9:30～15:00
 集 合：高良内幼稚園駐車場
 参加費：300円
 持ち物：マイはし、マイカップ、
 水筒
 問合せ：0942-46-8622（古賀）
 雨天中止

福岡市油山自然観察の森 主催

※往復ハガキでの申込方法はハガキに「行事名・行事実施日・住所・氏名・年齢・電話番号」を記入の上、自然観察センターまでお送り下さい。

12/14（日）
 油山・木の実で工作
 どんぐりやマツボックリを使って、
 オリジナルの作品を作ります。
 時 間：10:00～15:00
 対 象：一般
 申込み：不要
 定 員：なし
 集 合：自然観察センター

10名以上の団体でご利用の場合は、希
 望に応じて季節の生きものの紹介など
 をレンジャーが行なっています。また
 レクチャールームの貸出しもしてお
 ります。ご相談ください。

問合せ：油山自然観察センター
 参加費：100 円
 〒811-1355
 福岡市南区桧原夫婦石 855-1
 TEL：092-871-2112
 開館 9:00～16:30（月曜休館）



☆☆☆若久小学校 5 年生の自然観察会に協力しました☆☆☆

日時と場所：2008年11月12日（水）

9時～12時 及び 13時30分～16時

福岡県立社会教育総合センター



【 感じたこと 】

◎ 鶴田義明

私自身すごく楽しかったのであつという間に時間が過ぎてしまった感じです。

最後まで熱心にメモを取ったり、スケッチをしたりしながら興味深く楽しそうに観察している皆さんの態度にはほんとうに感動しました。そして、いろいろなものを発見したり、ふしぎに思ったことや疑問を感じたことなどをどんどん質問してくれたりして、とても充実した観察会が出来て良かったです。みんなの目の輝きや笑顔はとてもステキでした。私も皆さんと一緒に楽しい時間を共有できて嬉しかったです。

この体験学習をきっかけに、皆さんが植物や自然のことがますます好きになり自然を大切にする心が育ってくれたらいいなあと願っています。

このような時間をたっぷりとっていただいた学校や、サポートして頂いた先生方に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

◎ 藤川 渡

付き添いの先生方の指導にきちんと従い、規律正しく行動する素直な態度に、まず感心させられた。特に一生懸命メモする子が何人もいて、例えば、「あれがハゼの実で、あの実からロウソクが作れるよ」と言うと、「どうやって作るの」とその作り方で聞き出そうとする子がいて、こちらもTVで視た記憶により、「実を蒸して蒸気を冷やして・・・」というわけで、大変熱心な子が多かった。我々もパラフィン由来の西洋ロウソクが中心で、和ロウソク（木ロウソク）の体験が少ないので、和ロウソクを入手して見せたいと思った。

田や用水路、ため池のような人の手が加わった人工環境も生きものたちに役立っている部分もあるというような観点から話しをしてあげられたと思う。

川や用水路のクレソン（オランダガラシ・アブラナ科）、田の畦のノビル（ユリ科）、土手の木に絡むヤマノイモのムカゴなど、その場で味覚体験を通じて、季節毎に山野にも食べられるものの存在に気付いてもらえた。

◎ 山本 勝

全体的な印象として、子供たちの集中力がいまいちで、疲れている感じがした。捕虫網を遊びに使ったり、走り回ったり、虫を遊ぶために捕まえるという感じで、学習の対象として好奇心にあふれた子たちと隔離したいときもあった。しかし、私たちの思いを変わず伝え続けることで、子供たちそれぞれに何かが残っていくことを信じるのみでした。

◎ 松下彩二

思ったより朝の気温が低く、昆虫がわかりやすく出してくれるか心配だったものの、好天のおかげで10時近くから続々と出てくれて幸運でした。

子供たちはやはり都会的で「知識はあるが実感に欠ける」傾向が見られ、どうしても朝の注意事項を忘れてしまうこともしばしばでしたが、やはりこちらが真剣に是々非々でやっていることが伝わると持ち前の高性能ぶりを発揮してくれました。特に、今回は「飛んでいるもの」の見方を習得した子が多数見られたのは驚きでした。

何かを見つけてくれるたびに「どうしてそうなのとっちゃうの？」と考えてもらうよ

うにしたのですが、何かを推理して考えるというのは全般的に不得意に映りました。た

だ、だんだん私のクイズに対応してしっかり推理して考えて発言してくれる傾向も見られ、大変良かったと思っています。

しっかり見方をいくつか覚えてくれた5年生の皆さん、機会を設けて下さった校長先生、サポート下さった山本ご夫妻、その他先輩指導員の皆さんに感謝申し上げます。

◎ 堀 謙治

5年生の可愛い子供たち12名の植物班を担当しました。

若久小学校と篠栗社会教育センターの自然の違いなどを比較しながら、アカマツの年齢当て、くつつき虫やオオバコの子孫繁栄分布拡大作戦やリンドウの花の美しさ、イヌザンショウとクスノキの葉っぱの匂い、サルトリイバラの棘の鋭さ、フユイチゴの味、チジミザサの草笛、カラムシの音鉄砲など五感を使った楽しい自然観察を満喫しました。オオバコの草相撲ではなんと脅威の13人抜き？の大記録も出たりして大盛り上がり、子供たちの生き活きと輝いた瞳が印象的でした。本当に楽しい観察会になりました。

◎ 小野 仁

子どもたちの物を見る目が鋭く、一緒に楽しむことができました。時間がもっとあれば、虫眼鏡などを利用してそれをスケッチすることなどして、じっくり観察できれば1歩踏み込んだ観察ができたのではないかと思います。

河川的环境については、年々多少ではありますが、悪化しているように感じました。生きものの観察と合わせて水質の検査を行い、次年度の学年にバトンタッチするような仕組みを作ると面白いのではないかと思います。

小野 成子

大変楽しい時間を過ごすことができました。子どもたちは、色々なものに興味を示し、自然を心から楽しんでいたように感じました。暖かければ、食事を現地でとり、時間いっぱい自然とふれあえれば良いのではないかと思います。最後に、私の服についていたチョウの幼虫は「コミスジ」でした。

※※※ 観察会で参考にしてください※※※ (若久小の観察会の出来事から、事務局で選択し、構成した)

草の葉の上で動きの鈍い昆虫を見つけ、私がケースに入れて、種の同定を他班の担当者に確認したところヒメツチハンミョウでした。この昆虫は毒性が強いという情報で、触ったかもしれない子も含めすぐに手を洗わせました。

種の不明な生き物を扱うときは、素手ではなくケースなど利用することの大切さを痛感しました。人にもムシにもそのほうが優しいのですね。

勉強不足でしたが、今回しっかり学んだのは、

- このヒメツチハンミョウの属するツチハンミョウの仲間は毒要注意の昆虫であること。
- 素手などで刺激すると、体を丸め、脚の間接部分などから黄色いカンタリジンという有毒成分を出し、数時間後火傷をしたような水疱を生じ皮膚炎を起こすこと。
- 被害の起こりやすい季節は7～9月であること（今回は少し時期が遅かったので大事にならず助かったか？）
- 応急処置としてステロイド軟膏をぬること」などでした。 報告：S Y

～～～こういう方法での観察会のすすめ～～～ 大塚俊樹さんの場合（事務局で構成した）

■ 自然観察には『五感』をフルに使おう。時には第6感も…

目をつむると物音や野鳥の声が良く聞こえたり風を感じたりする

『視覚』広場の回りのイチヨウの木、黄葉しているが近くにあるのに緑の葉のままのものもある。なぜだろう？ 紅葉になるしくみと常緑樹の違い。紅葉しているハゼ、ウルシ、モミジ、カキの葉など探す、順路沿いのリンドウ（紫）ゴンズイ（赤と黒の種）アキノキリンソウ（黄） ジョロウグモの腹の赤色 などなど

『聴覚』野鳥の声、虫の声、自動車や鉄道の走る音、風に揺れる竹の葉、人の話し声など

『味覚』ムカゴ、フユイチゴ、アキグミ、ガマズミなど全員、味わった、初めての経験…

『嗅覚』ヘクソカズラの実と葉、嫌な臭いとは感じなかったのは熟して枯れていたからか？

大根おろしの臭いと表現があった。感心する。イヌザンショウの実と葉など。

『触覚』サルトリイバラの棘（地方での呼び名や方言と統一の名「標準和名」を学ぶ）

■ 遊びを取入れた自然観察

遊びの中から自然の成り立ち、仕組み、昔からの自然との付き合い方、利用の仕方、自然の守り方などを学ぶ。

- 1) シダの中間、ウラジロを使ったバッタ。草笛、ササブネ、ササアメ、竹笛（見本）

自然観察は基本的に採集はしないが、手にとり、利用することでより良く理解ができ、その自然環境にダメージを与えない範囲で採集し利用することは構わないことだと教え、過剰に取らないように「いただきます」と口にすることを指導した。

- 2) 昔からの利用の仕方

ガメノハ（サルトリイバラ）饅頭、ウラジロやコシダの茎のザルや籠づくりなど

- 午後の観察開始すぐにジョウビタキという野鳥（冬鳥）が現れ全員、望遠鏡で確認ができた。若久小学校にも来ているはず。

今日ここ篠栗で観察したことと学校や自宅との比較をして、同じ物や違うものを探して下さい。

今年の夏、津古の里山で観察会をしていたところ、区長さんから声をかけられた。今度淵田堤の堰堤工事を行なうことになったから重要なものがどんどこにあるのか、教えて欲しいとのこと。大変ありがたいお話である。堰堤には昔ながらの植物が残っているし、池ではオシドリやトモエガモが越冬しており大事な場所であるからだ。

9月に有志にて植物の主な調査を行い、これまでの観察したもの、堰堤法面などの大事な部分などをまとめて、区長さんと小郡市農業振興課の溜池担当にお渡しした。区長さんからも溜池担当に連絡が入っていたがどういう流れになるのか、どんな方なのかも知りたかったので、直に渡した。結局改修工事は福岡県が担当するとのこと、こちらの資料は福岡県に送られることと分かった。

さて、この池がややこしいのは、この場所が小郡市と筑紫野市の市境にあるということだ。池や堰堤の真ん中を境が通っているのだ。

筑紫野市側では淵田堤をとりこんだ公園化計画が持ち上がっていた。この公園化計画には要望書を筑紫野市長や担当課に直にお渡し、話を聞いてもらった。前もってどんな公園にするのかはよくわからなかったが、湖面そばに遊歩道を設置しないことや湖岸のブロック化はしないこと、また、池といわゆるグランドのような公園を隔離することなど要望した。その時に、公にされていない部分でしっかりと図面ができていて皆びっくりした。現在堰堤の北側にはマダケの竹やぶがあり、池は静かそのものである。計画では堰堤そばに盛土をして、池から公園が見えるようになるというものだ。池から公園が見えるとなると、警戒心の強いオシドリなどが落ち着いていられるわけがない。普段からほとんど人が上ることのない堰堤であるが、ちょっとでもそこに姿を見せた途端、カモたちは大騒ぎして逃げ出す始末である。これはなんとかしなければ、と思った。

その場で淵田堤の生物が筑紫野市にとってもとても重要な宝であることを皆が切々と訴えた。市側は当惑していたが、事態は動いた。福岡県の絶滅危惧種のオシドリなどが越冬している大事な池ということが市長の心を動かし、もう一度考え直すようにとの英断がおりたのだ。その後堰堤や市役所で三国の会員や自然観察指導員の方々のお力も借りて、開発担当の企業、地元の自治会の要望も含めた筑紫野市、などと何回か話、お互いの落としどころを探っていた。

結果、竹やぶの管理は大変であるので竹やぶの竹をのぞき、表土を取りおく。堰堤北側の盛土は認めるが、盛土の上に表土をのせる。その上に、元々今回の開発地域にあった樹木を移植し（盛土の南端から20m）、池から人の生活が見えないようにするというものである。そのための図面のチェックも行なうことができた。今後はどういう風に関係されていくのか、ビデオ撮影なども行なっていきたいと思っている。

三国はその名の通り行政区が違っているので難しい問題が色々ある。簡保跡地の問題もそうである。しかしながら、今回一人ではなしえないことが、皆様のご協力で開発側を動かすことができたことを本当に嬉しく思っている。

仲間がいるということはたのしいものだ。ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました

☆☆ お知らせ ☆☆☆

ナイス福岡の会員も多数参加した**海岸の植物調査の結果が、植物群落の冊子**としてできたとの連絡が有りました。

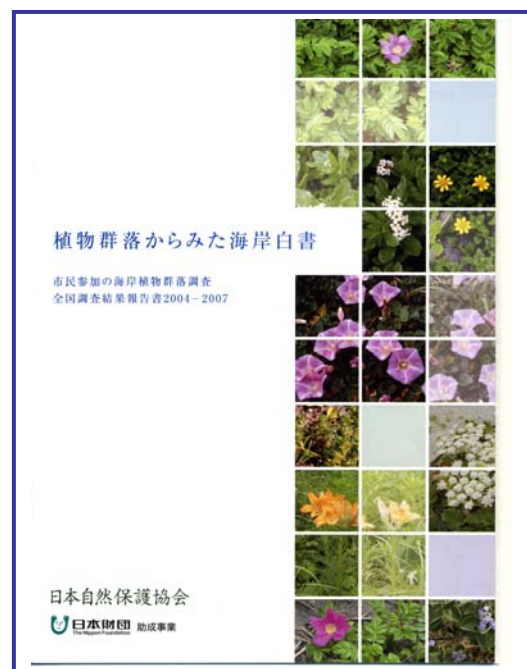
冊子を希望される会員は、

（財）日本自然保護協会の保全研究部の
開発法子さんまで問い合わせてください。

電話03-3553-4104

FAX03-3553-0139

電子便住所 kaigan@nacsj.or.jp



『たき火』という記事が目にとまり、切り抜きました。何年前に、仲間数人と背振山系の室見川源流に近い河原で、一日たき火をして過ごしたことが有りました。燃料の薪は河原のあちこちにあった流木を利用させてもらいました。仲間とたき火を囲んで、いも煮をしつつ、食べ物の話し、鳥の話し、草花の話しと話題は尽きませんでした。あっという間に時間が過ぎていました。すごく落ち着いた時間を過ごすことができたことを覚えています。この頃、たき火をあまりしていません。皆さんは、最近たき火をしましたか？ 田字草

頭がよくなる!?

2008.11.29(土)

朝日
たき火



たき火を前に学生と話す関根秀樹・和光大非常勤講師(右)

五感刺激し進化を実感

麻縄をほぐしたピンポン球大の固まりで、そっと火種を包む。和光大(東京都町田市)で「火の人間史」を教える非常勤講師の関根秀樹さん(48)が数回振ると、ボ

ワツと燃え上がった。関根さんが木の摩擦熱でおこした火だ。用意した薪はメタセコイアや桜の枯れ枝など大学のキャンパスで手に入るものばかり。細い枝から

太い薪へ、火が移っていく。

一般に軽い針葉樹は着火性が高いが、煙やすすが多く、火持ちは悪い。一方、堅い広葉樹は火は付きにくい安定して燃える木が多い。学園祭の後に燃やす屋台の木材はエゾマツなどが多く、一気に燃えてすぐ消えるとか。たき火を重ねると樹種に詳しくなりそう。

「たき火は五感を刺激する」と関根さんは言う。火は明滅しながら辺りを暖め、パチパチはせる音も響かせる。ユーカリをくべるとお香のような芳香が漂い、においも樹種で違うと分かる。

自然を楽しむ術も身につくという。肉でも魚でも、炎に直接あけると焦げやすい。塩をふり、アル

ミホイルにくるんだサツマイモや紫芋を、関根さんは薪の周りに置いた。ほほ燃えきったところで灰の中に入れ、待つ。

学生数人が集まってきた。「あち、あち」。イモが焼けたのを確かめて口に運ぶ。4年の渡辺優さん(22)は寮でよくたき火をするという。「ただ火をぼーっと見てい

るだけで落ち着くんです」女子栄養大名誉教授の小原秀雄さんは「火をコントロールすることを通じ人類の進化に思いをはせることができる」と効用を説く。炎の揺らぎを見つめれば、世の中心が決まったものだけではないと感覚で分かる効果もあるという。

(片山健志)

学会、全国で活動

たき火には「学会」もある。日本焚火学会は1990年設立。たき火を通した森林保存や中山間地域の振興が目的だ。広島県湯来町(現・広島市)などで営林署OBらから「寒い時の薪はどんな樹種がいいか」などを聞き取り、その後たき火を楽しんできた。

「最近、いきなりたき火を囲んでビールということも。学成りがたし、です」と広島国際大教授で世話人代表の吉長成恭(はるなかつ)さん。会費、会則なし。参加資格も問わないとあって、活動は全国に広がる。

これは何だろう!?



これは何だか解かりますか?

【ヒント】12月の玄界灘沿岸は、
宝探しのパラダイス

《前回(160号)の解答》

これは、ヨシガモの求愛のディスプレイの一部でした。(写真参照) この求愛のディスプレイは、野鳥の中ではカモの仲間が観察しやすいと思います。カモの仲間の多くは冬鳥として渡来し、海、川や池で越冬をします。この越冬のあいだにつがいを作りますので、12月から2月にかけて求愛のディスプレイが観察できるのです。

カモの仲間の求愛ディスプレイは、いろいろな行動パターンの組合わせで、様式化していて面白いですよ。(写真は12月下旬に小郡市井の浦池で撮影しました。)



◆◆◆◆◆事務局からのお知らせ◆◆◆◆◆

インターネット掲示板に会員の皆様の書き込みをお願いします。

ナイス福岡のアドレスはこのページの一番下に表示しています。

会費振込について

それぞれの会員の皆様の会員期限をタックシール部分に明記してあります。各自ご確認の上、郵便局にて下記の郵便振替口座に振り込みをお願いいたします。なお、会計年度は6月から翌年5月末までです。

郵便振替口座:福岡県自然観察指導員連絡協議会 01760-9-15783

年会費:2000円

皆に知らせたいことはありませんか?

皆さんが行っている観察会やイベントの案内、自然保護に関する情報やご意見、お薦めの本の紹介などをお寄せ下さい。原稿は定例会の一週間前までに事務局にお送り頂くとその月の会報に載せることができます。

皆さん情報をお待ちしています。

定例会に参加してみませんか?

本会の運営に関する打ち合わせや情報交換、会報の発送作業を原則として

毎月第2金曜の18:00~20:00ごろまで

自然案内舎(有)クラブードにて行っています。

会員の方はどなたでも参加できるのでお気軽にお立ち寄り下さい。皆さんのおこしを心よりお待ちしております!

次回の定例会は、2009年1月9日(金)午後6時より事務局で行います。1月号の原稿は、1/3(土)までに届くようにお願いします。なお、原稿を掲載するに当たっては編集担当にお任せ願います。

※ お願い 会報をホームページで見る環境をお持ちの会員は手をあげて下さい。経費節減のためです。宜しくお願いします。

他団体の会報の紹介

- ・ 日本野鳥の会筑後支部 会報まめわり 第92号 08.12.01
- ・ NOP法人自然観察指導員埼玉 あらかわ通信 no.149 2008年12月1日



お問合せ: 福岡県自然観察指導員連絡協議会

(NAIS Fukuoka: The Nature Interpreter Society of Fukuoka)

代表: 冷川昌彦/事務局長: 小野 仁/

編集: 田村耕作・山本勝・松永紀代子・吉田素子/会計: 宮原俊彦

〒814-0144 福岡市城南区梅林2丁目10番23号

ハイツ中村401

自然案内舎(有)クラブード内 TEL & FAX: 092-400-1765

URL: <http://www.kurabird.com/>

掲示板 URL: <http://bbs9.fc2.com/php/e.php/~naisfukuoka/>

編集後記 2008年11/14定例発送会は、山本勝・藤川渡・鶴田義明・大塚俊樹・田村耕作が参加。YTからみずみずしいスダチ、KTから煎餅の差し入れあり。若久小学校の自然観察に協力した内容について盛り上がりました。最近、大牟田の中岡会員から携帯のカメラで写した楽しい画像とともに一言添えての投稿が続いています。ホームページの掲示板を覗いて見てください。 田字草



日本生物教育学会

第86回全国大会（福岡大会）公開講演会・シンポジウム案内

本学会の第86回全国大会は福岡で開催致します。
2009年は、C. ダーウィンが誕生して200年、進化論が社会思想として全世界を席卷するきっかけを作った「種の起源」発刊から150年目に当たります。

そこで、国際生物学連合（IUBS）はこの2009年を「IUBS - Darwin 200」と定め、日本の生物科学学会連合では2009年を「日本生物学年」とし、シンポジウムの開催などにより、生物学の各分野の活性化と普及・啓蒙を図ることとしています。



日本生物教育学会は生物科学連合の一員として、この（図：東京書籍・理科基礎教科書より）
記念すべき年の始めに開催される本大会を、「IUBS - Darwin 200」「日本生物学年」協賛大会と位置づけ、「身近な生きものに見る進化」をテーマに、公開の記念講演やシンポジウムを企画しました。次の学習指導要領では、生物教育の中で「生物進化」が、重要な概念の一つとして位置づけられています。

学習指導要領が改訂され、その内容も明らかにされてきた今、その趣旨を理科（生物）教育の中でどのように生かすかを、参加される皆様と共に大いに議論したいと考えています。

また、21世紀の知識基盤社会を意識した、学習指導要領の基本テーマである「生きる力」の養成に関し、観察・実験やレポートの作成、論述といった知識・技能を活用する学習活動の中で、生物教育が受け持つ役割を具体的に明らかにしていきたいと考えています。

「日本生物教育学会 第86回全国大会（福岡大会）」は、次の日程で開催いたします。

日 程： 2009年1月10日（土） 講演会・シンポジウム・研究発表・ポスター発表
11日（日） 研究発表・ワークショップ

会 場： 中村学園大学 西2号館 福岡市城南区別府5丁目7-1

交 通： 市営地下鉄七隈線・天神南 又は 薬院乗車 → 「別府」下車
西鉄バス・博多駅前 又は 天神コア前より【六本松・荒江経由】乗車

→ 「中村大学前」下車

* 公開講演会、公開シンポジウムはオープン開催で、参加費は無料です。

【 公 開 講 演 会 】

日 時 1月10日 11:10～12:10
講 師 九州大学大学院理学研究科
教授 矢原 徹一 博士
演 題 身近な生きものに見る進化
(仮題)

問い合わせ先

日本生物教育学会第86回大会
実行委員会事務局 平田 晃巳
(中村学園女子中学・高等学校)

mail: sbsej2009@huk.bbiq.jp

TEL: 080 - 6401 - 0798

【 公 開 シ ン ポ ジ ユ ム 】

日 時 1月10日 14:00～16:30
テ ー マ 初等中等教育における進化の取り扱い
—進化の視点を持った教科指導—
シンポジスト 田代 直幸 氏 文部科学省 教科調査官
中道 貞子 氏 前・奈良教育大学附属
中等教育学校 副校長
大須隆一郎 氏 福岡教育大学附属
福岡中学校 教頭
山下 浩之 氏 福岡市立南片江小学校 教諭
【 司 会 】 井上 裕一 氏 福岡県立柏陵高等学校 校長